

様式第4号（第6条関係）

令和7年11月14日

富士見市議会議長 勝山 祥 様

会派名・代表者 日本共産党

又は無会派議員名 川畠勝弘

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

1 期 間 令和7年11月8日～ 令和7年11月9日
(0泊 2日)

2 参加者名 川畠勝弘 宮尾玲 木村邦憲 須崎悦子

3 場所（行政視察地・研修場所）

法政大学 市ヶ谷キャンパス 東京都千代田区富士見2-17-1

4 調査・研修概要

○11月8日(土)

【SNSと地方議会】

「『民意』はどうできていくのか？SNSの影響と地方議会の方向性」

廣瀬克哉 法政大学法学部政治学科教授

大森翔子 法政大学社会学部メディア社会学科准教授

米重克洋 株式会社JX通信社代表取締役

SNSが発達し、選挙の結果を左右する時代になった。新興勢力の

急伸などの事態が生じており、SNSの影響は無視できない存在になっている。SNSの炎上は自動的に增幅させる構造があり、悪意の虚報で閲覧回数を稼ぐ投稿者もいる。炎上の時代であっても、その基盤が確固としていることが何よりも大切である。

【AIと地方議会】

「活性化？不要？AIで議会・議員はどう変わる？世界と日本の今と未来」

高選主 福島学院大学地域マネジメント学科教授

河村和徳 拓殖大学政経学部教授

世界を見ればデジタル化が進んだ国では、AIを使って政策・条例・意見集約を自動化。既存条例の問題点と課題を出し、新しい条例案の提示や議員への説明、住民説明会の資料作り、マスコミ向けの記事、改正による効果の分析などをAIが行うことで、信頼性が高くなる。AIは賄賂をもらわないという考え方ができる。

【最新議会改革】

「議会改革のトレンドと注目学会～地域経営のための議会改革度調査から～」

山内健輔 早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員

地域経営のための議会改革度調査を実施した。議会における生成AIの活用状況、活用の課題について説明。活用の現状はまだ限定的である。各地の市議会で活用に向けて議会としての研修を行い、文書作成支援から構成、翻訳などに活用できるとよい。

○11月9日(日)

【地方議会の政策づくり】

・実践編①～子ども・若者との政策づくり～

勝山祥 富士見市議会議長「富士校生の主張in富士見市議会」

富士見高校との協働事業による議場での主張発表会について、高校内で有志生徒の募集、市政に関するテーマ研究、議場での発表を、時系列を追って実践の様子を富士見市議会の勝山祥議長が発表した。

浜田市議会 「主権者教育につながることもの意見の施策反映」

主権者教育への取組について、はまだ市民一日議会、小中学校の議場見学、島根県立大学との連携、高校生との意見交換会を行い、様々な世代の声を市政に反映し、子どもたちの声をカタチにして、市民から必要とされる議会をめざす実践の発表。

田口裕斗 NPO法人DAKKO理事「議会との対話で民主主義の担い手を育てる」

自身が高校生のときに市議会体験を行い、政治や社会に目を向けるきっかけになったことで、より多様な方へ政治や社会に参画するきっかけを作りたいと考え、社会人となってからも働きながらNPO法人の活動を行っている。

(コーディネーター)

林紀行 日本大学法学部教授/早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員

【地方議会の政策づくり】

・実践編②～議会による政策づくり～

一関市議会 「『政策提言等の実施に関する指針』」の策定と実践」

政策提言等の実施に関する指針について、令和5年度に今後取り組むべき議会改革項目を各会派内で検討し、議会運営委員会で決定した。先進自治体を視察しつつ骨子、素案の協議を行い策定し

た。三つの委員会から「空家対策」「有機農業の推進」「不登校問題」の提言を作成し、本会議を経て議長から市長へ提言書を提出した。

高橋英昭 横須賀市議会政策検討会議委員長「政策形成サイクルの実践と事例紹介」

平成28年の議員研修会から議会改革や政策検討会議の必要性を認識し、政策検討会議等準備会を設置して、平成29年に全会一致で政策検討会議を設置した。その後毎年1本程度、条例制定や政策提言を行っている。政策形成は、P D C A サイクルで政策立案を行っている。

外山利章 知名町議会議長「各常任委員会による町民起点の政策提言」

町民起点の政策提言は、町民の声を提言に変えるプロセスとして、起点となる町民の声を集め、当事者意見の深掘り、課題解決に向けた所管事務調査を行った。先進自治体の調査や議員間討議を行い、決定後執行部へ提出した。実現に向けフォローアップ後、政策提言が町の施策として実現する。

(コーディネーター)

江藤俊昭 大正大学地域創生学部公共政策学科教授

【北川正恭 早稲田大学名誉教授 L M最終講義】

(1)「議会改革と北川正恭。足跡を再検証する」

江藤俊昭 大正大学地域創生学部公共政策学科教授

廣瀬克哉 法政大学法学部政治学科教授

前田隆夫 西日本新聞論説委員

長年にわたり地方分権や議会改革を提唱し、ローカルマニフェスト推進連盟の活動を牽引した北川教授の功績や実践について、そ

それぞれの立場から検証して、実績を確かめ合った。

(コーディネーター)

千葉茂明 公益財団法人日本生産性本部上席研究員

(2) 「L M最終講義」

北川正恭 早稲田大学名誉教授

5 3年前県会議員になってから、衆議院議員、県知事を行い、各種改革や議員の資質向上を目指した取組を行ったことを述べ、多くのみなさんの理解と協力で現在に至った旨の最終講義にふさわしい講演だった。

(3) 全体総括（閉会挨拶・記念撮影など）

閉会挨拶後、参加者全員で記念撮影を行う。

5 感想及びまとめ

ネット社会が進み、SNSは議員選挙への影響だけではなく、議会運営にも大きく関係する時代となることが実感された。AIを使って情報収集、調査、議案や政策の策定まで行う事例が実践されていることは、これからは住民と議会の関係や議会運営に大きく影響し、変わっていくであろうと予想された。今後においては、SNSもAIもこだわり過ぎるのではなく、便利で効果的な道具として使いこなせるように、実力につけることが大切であると思った。

子ども・若者との政策づくりや地方議会の政策づくりは、それぞれの地域や自治体の特徴や個性を引き出し、議会が一致するように努力しながら、あるいは会派にこだわらずに、住民の利益を優先することを大切にしながら、進めていく必要があると思った。

*行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、会派又は無会派議員

にて保管